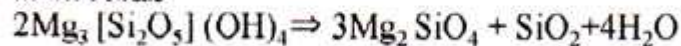


熱化学変換法(TCCT)の要約

- 廃棄物には無害な融剤ケミカルを添加し炉に投入する 温度は1, 200°C
- 1, 800°Cにもなる溶融と比較してもかなりの省エネである
- 20分以下の炉内滞留で処理
- 飛散性・非飛散性を含む全てのアスベストを無害化できる
- 放射性のある原子核・金属なども同時に硝子状にし非溶出性の固体にする
- 減容積率は50~90%に達する
- 生成物質はコンクリート骨材や建設碎石としてリサイクルされている
- 安全な作業プロセスで作業員に対するリスクは最小である
- ランニングコストは約36000円/トンとかなり経済的である
- アメリカでは商業ベースで運用できるまでに開発が進んでいる
- EPA(米国環境保護庁)によりアスベスト・PCB処理プラントとして許可を受けている
- 欧州連合より最善の有用技術(BAT)の評価を受けている
- 本年7月に日本の環境省がTCCTの稼働を視察している

熱化学変換法 基本的な化学反応

900~950°Cでの反応



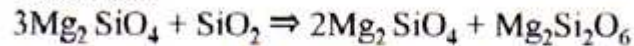
石棉(リンゴ石)

新成(シリカ)

石英



1000~1200°Cでの反応



新成(シリカ)

新成(シリカ)

石英(メノウ)

